

情報を整理して書こう（５年） 見学したことをもとに

● 指導目標

見学をして調べたことや考えたことを，文章全体の組み立てを考えて効果的に記録文として書く。

- 目的や意図に応じて，自分の考えを効果的に書くこと。
- 文章全体の組立ての効果を考えて書くこと。

● 教材について

本教材は，子供たちの学校生活での経験や体験，他教科・他領域での学習内容を，文章の組み立てを考えて効果的に書くとともに，情報の整理の仕方や作品としての記録文の発信の仕方をも学んでいくようにしている。

今日，情報化・国際化が進んでいる社会では，客観的事実の伝達を目的とする記録文・観察文・報告文・意見文などの理論的文章をまとめる力が，強く求められるようになってきている。事実は何かを，客観的，かつ，正確に記述することは，伝える相手に対して正しい判断材料を与えるだけでなく，説得力も出てくる。

本教材は，１．自分の調べたいことを見つける，２．下調べをして，課題についての情報を集める，３．課題にそってメモを作る，４．調べたことを整理して，組み立て表を作る，５．組み立て表をもとに記録文を書く，６．感想や意見をもらう，という一連の作文指導の流れで構成されている。また，具体的な例として，メモや組み立て表，記録文を取り上げ，提示していることによって，子供にはとらえやすい。

そこで，本教材では，実際に記録文を書かせることを目標にし，目的や意図をはっきりさせ，自分の考えたことを読み手によく理解できるよう文章全体を見通し，論旨の一貫した表現を工夫するようにさせたい。

「Ｂ 書くこと」の目標と内容

目 標

目的や意図に応じ，考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに，効果的に表現しようとする態度を育てる。

内 容

書くことの能力を育てるため，次の事項について指導する。

ア 目的や意図に応じて，自分の考えを効果的に書くこと。

イ 全体を見通して，書く必要のある事柄を整理すること。

ウ 自分の考えを明確に表現するため，文章全体の組立ての効果を考えること。

エ 事象と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

第５学年で学習する「Ｂ書くこと」は，段落意識をもたせ，考えたことなどを筋道を立てて文章を書く能力を育てることが大事になる。

筋道を立てて文章を書くためには，取材の段階からその目的や意図をふまえ，ある程度文章全体の構成や記述を念頭に置き，書く必要のある事柄を適切に取捨・選択したり，整理したりすることが大事になってくる。前学年で育成した段落相互の関係や段落の役割をおさえる能力をもとにし，文章全体の組立ての効果を考える能力を育てるように指導したい。

● 学習指導計画（全 8 時間）

展開・時	学習活動	留意点
第 1 時	○ 学習内容をつかみ，これからの学習計画を立てる。 ・ 学習の見通しをもつ ・ 課題をはっきりもつ	○ 学習指導を立てさせる。 ・ 『見学したことをもとに』を読んで，何をこれから学習するのかをつかませる。 ・ どのようなことをテーマにして記録文を書いていくのかを決めさせる。
第 2 時	○ 課題とつながりそうな情報を収集するために，下調べをする。 ・ 「情報ノート」 ・ 見学メモ	○ 課題を決めさせる。 ・ 課題と調べ方を考えさせる。 ・ 調べる場所，調べる方法をはっきりさせ，情報ノートに記入させる。
第 3 時	○ 組み立て表を作る。 ・ 組み立て表と記録文の関連	○ 組み立て表を作成させる。 ・ 調べたことを整理し，組み立て表に書き入れさせていく。
具体的な文章とその構成表とを照応させてどのように組み立てているか理解させたり，中心となるねらいを読み手に伝えるために，どんな事実を配列して段落を構成しているかを理解させたりすることが大事で，その後に，子供一人一人の作品についての構想・構成を作らせていくようにする。		
第 4 ～ 5 時 （本時）	○ 組み立て表をもとに，効果的な順序や叙述の仕方を考えながら作文を書く。	○ 組み立て表にそって記述させる。 ・ 自分の課題を確認させる。 ・ 書く順序を考えさせ，全体の構成を工夫させる。 ・ 事実と意見，問いかけ，箇条書き，言い換えなどの記述の仕方を工夫させる。
第 6 ～ 7 時	○ 記録文を推敲して，よりよい表現に書き改める。 ・ 推敲の観点を提示する	○ 自己推敲させた後，グループで交換し，感想を話し合わせる。 ・ 教師はあらかじめ作文に目を通し，推敲箇所に印を付けておく。 ・ 組み立てと表記の工夫の観点を中心に，感想やアドバイスをカードに書かせる。
第 8 時	○ 友達の作品を読み合う。	○ 作品を読み合って，感想をカードに書いて交換し合う。 ・ 一口感想（カード） ・ 付箋紙を利用

● 本時の展開（本時 4・5 / 8）

目 標

- ・作った組み立て表をもとに，効果的な順序や叙述の仕方を考えながら作文を書く。

評価規準

- ア 自分の伝えたいことをはっきりさせ，目的意識や相手意識をもって書こうとする。
（関心・意欲・態度）
- イ 組み立て表をもとに，文章全体の構成を考え，自分の伝えたいことがわかるような表現で文章を書いている。（書くこと）

● 展開例

学習活動	学習内容・留意点	評価・支援
1 本時の学習課題を確認する。	○学習の進め方	○組み立て表をもとに，自分の伝えたいことを確認させる。
	自分の伝えたいことを記録文に書こう。	○組み立て表をもとに，どのような順序で書き進めていくかを考えさせる。
2 書くこと		
・組み立て表	○組み立て表をもとに，順序を考える。 ・書き出しの文，まとめの文 ・事実（具体的例），意見 ・調べたこと，聞いたこと	書：組み立て表をもとに，全体の構成を考えて書いている。 ○「はじめ・中・おわり」の内容の順序を考えさせる。 ○書き出しや自分の考え，具体的事実などをどのように書いていくのかを考えて，組み立て表の構成欄に記入させる。
・表現方法	○叙述の仕方を考える。 ・問かけの文，投げかけの文の使い方 ・文末表現 ・だそうです。・でしょうか。 ・と思いました。 ・箇条書き ・数値 ・接続語 まず，そして，しかし など ・言い換え 例えば など	書：自分の考えがわかるような表現の仕方を考えながら書いている。 ○本時のねらいは，こういう組み立てで，こういうことを書くのだということを頭において，最初の一文から書き始め，そのあと次々と文を書きつないでそれを積み重ねていき，文章の結びまで書かせていくことである ○この時間では，精神の集中と緊張の持続が要求されるので，「落ち着いて書きなさい」「心をひきしめてがんばって書きなさい」

		「書いたら読み返し，読み返しては，また書き続けるようにして，がんばって書きなさい」という助言をすることが大切である。そして，一文，一文を「。」で切りながら，それを連ねていくことの大切さをよくわからせなければならない。そのためには，「。」までの文を書いたら，それを読み返し，「足りないところは書き足す」「間違いがあったら直す」という活動をさせることが大事である。
3 本時のまとめと次時の予告	○次時のめあて ・書いた記録文の推敲	○次時では，完成した記録文を読み直しし，練り上げすることを伝える。

● 参考 指導と評価について

指導事項	評価規準	評価
関心・意欲・態度	自分の調べたいことを明確にしてさまざまな方法で調べ、他者に伝えようとする。 ○どのようなことを調べたいかをはっきりさせようとする。 ○自分の課題をどのような方法で調べていくのかを考えようとする。 ○相手にわかるような記録文を書こうとする。	A：自分の課題を決め、図書室の資料のほかインタビューやインターネットなどさまざまな手段を活用して必要な情報を集めようとしている。 B：自分の課題を決め、図書資料で必要な情報を集めようとしている。 支：どのような情報の集め方があるかみんなで考え合わせる。
書く能力	書く必要のある事柄を整理し、目的や意図に応じて文章の構成を工夫しながら、伝えたいことがはっきりとわかる文章にまとめる。 ○組み立て表を作ることができる。 ○組み立て表をもとに、文章全体の構成を考慮することができる。 ○段落意識をもつことができる。 ○伝えたいことが明確な文章を書くことができる。	A：組み立て表をもとに、文章全体の構成を考え、伝えたいことが明確な文章を書いている。 B：組み立て表をもとに、文章全体の構成を考えながら作文を書いている。 支：組み立て表を使い、どのような順序で書くと自分の伝えたいことがよく書けるかを確認させる。
言語事項	いろいろな構成を考えて文章を書く。 ○表現の工夫を考えて書くことができる。 ○自分の伝えたいことを意識して、段落の構成を考えて書くことができる。	A：文や文章にはいろいろな構成があることを理解し、自分の伝えたいことを表現するために効果的な方法を選んで文章を書いている。 B：段落構成を意識して文章を書いている。 支：組み立て表をもとに段落構成を工夫させる。

● 組み立て表

情報を整理して書こう 名前 ()

調べたいこと (なぜ調べたいのか)		
課題を決めよう (読み手に伝わるように)		
調べ方 (調べる方法・場所)		
メモを作ろう		
番号	調べたいこと	わかったこと
順序を考えよう (メモの番号を使って 書く順番を考える)		
書き出しをくふうしよう		
自分の考え・意見・感想を書こう		
表現をくふうしよう		